

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年1月9日

【2017年12月30日～2018年1月5日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドル、対円で上昇しました。また、2年国債金利は低下しました。米国・欧州・中国で堅調な経済指標が示されていることに加え、商品相場の上昇を追い風に新興国通貨全般への資金流入が継続しており、ブラジル金融市場では為替、債券ともに堅調な推移となりました。

年金改革法案を巡る政治情勢につきましては、ブラジル連邦議会が休会期間に入っていることもあって目立った進展はありませんでしたが、「下院での可決に向け、依然として賛成票が50票ほど不足している」と現地紙は報じています。

先日辞任したノゲイラ労働相の後任に、テメル大統領は当初の候補者であるフェルナンデス下院議員ではなく、クリスチアーネ下院議員を指名しました。同氏は過去に有罪となって服役したことで知られるブラジル労働党(PTB)党首ロベルト・ジェフェルソン氏の娘であることから、現地では物議を醸している模様です。

【2】今週の見通し

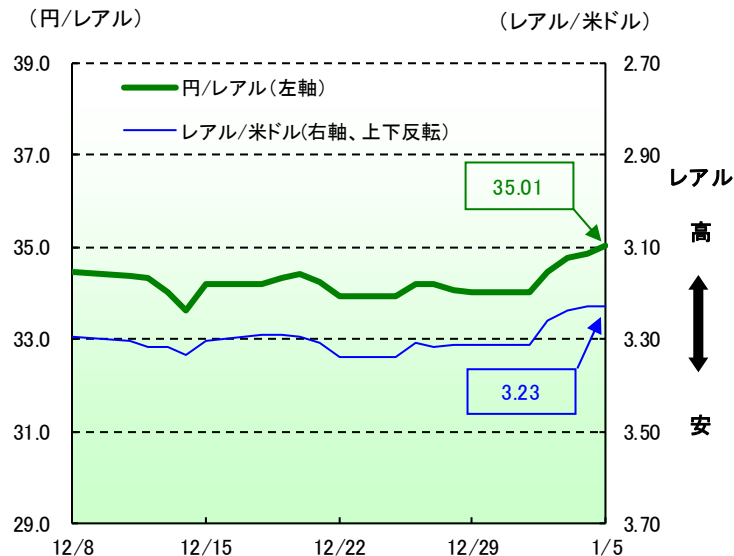
今週のブラジル金融市場は、年金改革法案を巡る政治情勢と、1月24日(現地)に予定されているルラ元大統領の控訴審を材料として神経質な展開を予想しています。

ルラ元大統領の控訴審につきましては、「3名の判事全てが既に有罪支持の見解に傾いている」との現地紙報道もあり、最高裁が元大統領の大統領選出馬を認めない可能性を市場は織り込みつつあります。世論調査で抜群の支持率を誇る元大統領は、現政権が進める構造改革に対して否定的な立場を貫いており、仮に出馬が可能となるとブラジル金融市場にとっては悪材料となり得ます。引き続き裁判の行方には市場参加者の大きな注目が集まります。

経済指標では、小売売上高やIPCAインフレ率の発表が予定されています。後者につきましては市場予想では、前月同様に前年比2%台後半のインフレ率が見込まれています。

【ブラジル・レアル 為替推移】

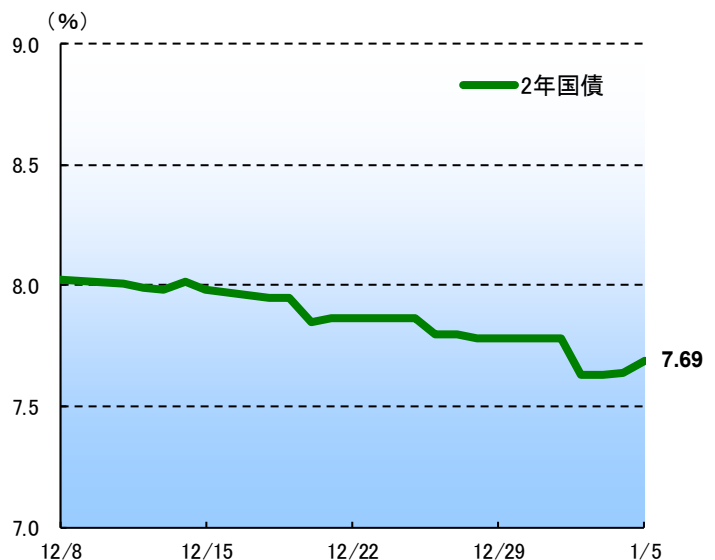
(2017年12月8日～2018年1月5日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2017年12月8日～2018年1月5日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>